

## 2014年（平成26年）度街かどケア滋賀ネット 事業報告

### ○小規模多機能ケアの拡充

- ・小規模多機能ケアを実施する事業所の立ち上げ支援  
介護保険事業である「小規模多機能型居宅介護」の建物整備や申請書類の作成等について、「くらし支え合いNPO・地域活動支援事業」（アドバイザー活動）等を通じて支援した。  
また自主事業である「小規模多機能ケア・認知症ケア研修」でも、小規模多機能ケアの必要性や展開について学んだ。
- ・立ち上げ後数年経過した事業所への中期運営支援  
自主事業である「小規模通所介護事業のあり方研修」（類型化への対応）等で支援を行った。同じく自主事業の「事業所間交流会・見学会」でケアの質や職員・スタッフの育成等、運営上のポイントについても学ぶことが出来た。
- ・「生活機能の維持・向上」への取り組み支援  
会員事業所10カ所が「複数事業所連携事業」を利用し、「夢のみずうみ村」へ出向き研修を受けた。なおその研修の事前、事後研修も行い、より有効な研修となった。

### ○地域支え合い活動の推進

- ・「くらし支え合いNPO・地域活動支援事業」を中心として
  - ① 支援フォーラムでは栃木・なじみ庵の飯島さんをお呼びして、地域内の支え合い活動の事例を聞いた。要介護者がサービスの一方的な受け手となるのではなく、「今日行く所と今日も用がある」として、居場所と役割を保障する地域拠点の整備の必要性を学んだ。  
また県内の事業所を拠点にした生活困窮者支援等の事例報告も行った。
  - ② 支援講座は4回の連続講座とし、地域内の生活支援サービスづくりについて学んだ。1回目は草津の心さんを拠点とした助け合い活動について、2回目は彦根のぼぼハウスさんのあったかほ一むや障害者支援事業所を拠点とした市民参加、地域への働きかけについて、3回目は湖南市石部のなんてんやワイワイの事業所を拠点とした市民、事業者、行政の協働による地域助け合い活動について、4回目は東近江市愛東町の「あいとうふくしモール」を拠点とした、食・エネルギー・福祉の地域循環による助け合い・支え合い活動について学んだ。
- ・小規模多機能ケアの場を拠点として  
上記のくらし支え合い支援連続講座に合わせて行われた現地見学会では、小規模多機能ケアの場でもある心、秋桜舎、結の家が、地域内の助け合い・支え合い活動の拠点となっていることも学ぶことが出来た。
- ・中・大規模施設とも連携して  
後述のいきいき生活支援員にも関連するが、障碍のある人たちの介護現場での就労支援について、いくつかの大規模施設と連携が図れ、制度化への後押しとなった。  
また自主事業の「事業所間交流会・見学会」では、地域密着型小規模特別養護老人ホーム「まんてん」のおとしよりと近隣住民との交流を通じての助け合い・支え合い活動について学んだ。
- ・ほんの些細な、目には見えない支え合いも大切に  
地域内での「おもいやり・あいさつ・声かけ」や施設、事業所内でのおとしより同士で

のちょっとした手助けの事例等が、ネット内の話題としては上がったが、取り組みとしての報告の場は設けなかった。

・住民・事業者・行政の協働による支え合いのしくみづくり支援

小規模多機能ケアの場や中・大規模施設を拠点とした、県内各地の助け合い・支え合い活動の殆どが三者の協働によって進められていることが報告された。

・「くらし支え合いNPO・地域活動支援事業」

くらし支え合いアドバイザー事業（見学・出前・相談・運営・行政とのつなぎ）

本年度も街かどケア滋賀ネット役員に加えて、他の団体の方にもアドバイザーを要請した。本年度の特徴は、地域支援サービスづくりに関する出前講座、小規模多機能ケアを実践する「小規模多機能型居宅介護」の立ち上げ相談・見学、いきいき生活支援員の雇用相談であった。

○「いきいき生活支援員」の制度（事業）化

・おとしより・事業所・地域よしの“ならでは”の働き

「介護の場における知的障害者就労促進検討事業」の中の検討委員会や内部ジョブコーチ研修や制度説明会の中で報告された。

・「介護の場における知的障害者就労促進検討事業」

① 平成27年度からの本格実施に向けたカリキュラム等の検討

滋賀県障害福祉課、滋賀県社会就労事業振興センター、街かどケア滋賀ネットが、次年度からの制度化に向けてカリキュラムの検討を行った。制度内の県独自部分、スキルアップ研修、内部ジョブコーチ研修とも、大項目のみの設定とし、介護環境等の変化に備えられるようにした。

② 検討委員会の実施

前記三者に加えて雇用事業所、雇用支援機関、有識者等からなる検討委員会を4回行った。上記カリキュラムの検討と下記モデル研修の結果をまとめ、滋賀県に対していきいき生活支援員の制度化へ向けての制度提案を行った。

③ 介護の場で働く障害のある人たちのスキルアップ研修会・交流会（意見聴取会）

前年度のヒヤリング等で働く本人や雇用事業所スタッフ等から要望のあった「清掃技術」や「介護実技」（車いすの押し方等）等について、講義と実技を行った。

④ 内部ジョブコーチ研修（集合・出前）・交流会（意見聴取会）

集合研修では「障碍の基礎知識」や「雇用支援機関について」等について学んだ。特に集合研修の中で行われた各事業所間での意見交換は貴重な機会となった。

⑤ 「いきいき生活支援員」制度説明会（フォーラム）

議会で承認された「いきいき生活支援員」の制度についての説明と、いきいき生活支援員本人、雇用事業所スタッフ、雇用支援機関スタッフによるシンポジウムが行われた。15年の実績の上で出来上がった滋賀県ならではの中味と、今後の雇用の拡がりへの期待が膨らんだ。また同時に制度の展開についての責任の重さも感じた。

○“ならでは”の働きの見える化事業

・「いきいき生活支援員」の雇用促進に向けて

・“ならでは”の働きの客観化・データ化

障碍のある人たちが、介護の場で働く際に醸し出す安心感やゆったり感を“ならでは”の働きと位置付けてはいるが、実習や雇用のお願いの際に、その根拠についての説明

を求められることが多い。すでに働いておられる人たちについて客観的なデータを取ることが出来れば、よりいっそうの雇用促進が期待される。

- ・ 龍谷大学と連携して

上記検討委員会や龍谷大学で、村井教授、栗田教授、滋賀県社会就労事業振興センタースタッフ、働き暮らし応援センタースタッフが、調査のねらいや調査項目、調査方法について協議した。

- ・ 2年がかりで

- ・ 民間助成金に応募

調査に掛かる費用助成を「丸紅基金」に応募したが、採用に至らなかった。

## ○複数事業所連携（研修）事業の推進

- ・ 各ブロックで組まれている連携事業に参加していない、5事業所×2チームを支援。

共生舎なんてんをリーダー事業所とし、10事業所に参加をしていただいた。

- ・ 助成金や委託事業、税制研修などの運営面の研修・介護技術や認知症ケアなどの研修

- ・ その人らしい暮らしの良い支援とケアプラン（プランの見える化）などの研修

上記の候補の中から「力を引き出す介助術」と介護保険改定の重点的なねらいの一つであった「生活機能の維持向上」（夢のみずうみ村）についての研修を行った。

- ・ 合同での学習会

二つの研修では、事前と事後に学習会を行った。事前学習会により研修のねらいやポイントを知ることができ、事後学習会によって自事業所内への伝達を確認され取り組みが始まるなど、研修全体がいっそう有効なものとなった。また、本研修や事前事後の学習会を通じて、参加者の交流が図られた。

## ○会員拡大と財政の安定化

- ・ 新法人になり、一定の整理を行った結果、会員数が減少した。役員・事務局で新しい会員の獲得を図っていく。各研修時等で案内するとともにホームページ等でも募集していく。

各研修の案内などを通じて加入勧奨を行った。会員は、少しではあるが、新たに入会してくださった事業所があった。

また年度途中から、非公式ではあるが、小規模多機能型居宅介護事業所の集まりである「小規模の集い」の事務局機能を担っており、集いの開催ごとに加入の案内を行った。

## ○街かどケア滋賀ネット自主事業

- ・ 事業所間交流会の実施（研修会終了後2回 2ブロックで）

3月11日に湖北ブロックにて事業所間交流会を行った。まんとひだまりの事業所見学、事業所説明を受けた後、夕方から交流会を開催した。

- ・ 小規模多機能ケア・認知症ケア研修会の実施（認知症を抱える人たちの生活機能の維持）

2月27日、高島にて「小規模多機能ケア・認知症ケア研修会」を開催した。木もれびの森村さんには、高齢者ケアの三原則に沿った本人中心の認知症ケアについて、なんてん共働サービス・秋桜舎の溝口さんには、柔軟即時の小規模多機能ケアの実際についてと、秋桜舎での看取り支援についての報告をいただいた。

- ・ 「いきいき生活支援員人材確保フォーラム」（民間助成金）

委託事業の中で「いきいき生活支援員の制度説明会兼フォーラム」を実施したため、民

間の助成金への応募はしなかった。

## ○その他

- ・「宅老所・グループホーム全国ネットワーク」との連携（全国フォーラムの開催等）
- ・「同近畿ブロック」での活動（県外研修等）

兵庫宅老連主催の居住系研修（本人支援のあり方等）に参加し、研修と交流を深めた。今年度の全国フォーラム（大阪）には、滋賀ネットとしての積極的な関わりを持ってなかった。
- ・県・市町行政、その他団体・ネットワークとの連携・協働（平成27年度改定へ向けて）

各研修については開催市町の担当課や社会福祉協議会の後援をいただき、広報等での連携を図った。特に生活支援サービスづくりの連続講座には開催市町から多数の参加があった。
- ・「滋賀県介護職員人材育成・確保対策連絡協議会」委員の参加

上記連絡協議会の委員として、街かどケア滋賀ネットの役員1名を推薦し参加した。また、この連絡協議会に関係する「しが介護の職場合同入職式実行委員会」委員に街かどケア滋賀ネットの役員2名を、「外国人介護職員養成部会」委員に街かどケア滋賀ネットの役員1名を推薦し参加した。
- ・「平成26年度生活支援コーディネーター養成中央研修」の受講

生活支援コーディネーター養成にかかる中央研修に、街かどケア滋賀ネットの役員1名を推薦し受講した。
- ・「多様に広がる在宅看取り」に学ぶ市民セミナー

在宅看取りのセミナーを小規模多機能型居宅介護事業所秋桜舎と共催した。地域包括ケアセンターいぶきの畑野先生のお話、石部高校の方に看取りの体験談集の朗読、独り暮らしの方の在宅看取りを経験された介護職の方のお話を聴くことができた。介護職関係者、行政、当法人会員、地域住民が多数参加してくださった。